

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101460		
法人名	社会福祉法人 神楽会		
事業所名	グループホーム夕陽が丘		
所在地	長崎市大浜町543番地5		
自己評価作成日	令和2年 3月 1日	評価結果市町村受理日	令和2年7月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和2年 6月 19日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、「何もしない」事を大切にしながら利用者の方々と生活をしています。「何もしない」とは、ホームや職員が作ったルールに当てはめないという事です。今までの生活習慣や生活のリズムを大切に、9名の方が9通りの生活を送られています。「大家族をつくろう」を理念としており、利用者、家族等、職員が喜怒哀楽を共にしながら、本当の家族のような関係が築けるよう努力しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者を中心に個々の生活習慣や生活リズムを大切にしながら一日のルールを定めず、本人の暮らしを支援している。書道や生け花など趣味や特技の継続の他、無趣味や難聴など一人ひとりに合った支援に注力している。コロナ禍による非常事態においては、「元気だよ」といったメッセージボードを手にした笑顔の写真を家族へ送付している他、桜の画像を揃えバーチャル花見を企画するなど、職員のアイデアによる取り組みは特筆すべきである。協力医との連携による看取りの実例があり、家族が訪れ利用者の食事介助を行うなど、終末期の家族との関係づくりも支援している。また、管理者と計画作成担当者、2人の目線は利用者中心でチームワークが良く、ホーム全体の結束へと繋がっている。理念「大家族をつくろう」に基づいた、その人らしく安心して楽しく生活ができるホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	大家族を作ろうの理念のもと、その人らしさ、人とのつながりを大切にする介護方針をつくり、職員は就業前には理念を読み上げ勤務を開始し、理念の実践に取り組んでいる。	就業前、出勤簿の表紙に添付している理念と介護方針を読み上げ、理念チェック表により周知度合いを管理徹底している。法人研修では、“倫理と法令”の中で、理念の意味や目的について理解を深めている。職員は、これまでの暮らしの継続に注力しながら理念の具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会加入している。地域の方に施設見学など行って頂く様に運営推進会議の際に、呼びかけを行った。	自治会に加入し、職員が清掃活動に参加している。回覧板にパンフレットを折り込み、活動を地域に発信している。地域住民がホームの見学に訪れた際や電話等で相談を受け、困りごと解決の役割を担っている。現在、地域行事への参加や慰問による交流などを計画予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会や地域ネットワーク会議にて、介護の相談窓口を設けていることの発信を継続している。 地域の方からの相談はなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現状を報告行っている。 定期的に開催できている。自治会長や利用者の参加もあった。地域の方や家族などの参加人数少なく、昨年度同様に参加人数を増やす必要あり。	年6回、行政、地域住民代表、利用者の参加により開催している。出席者の助言により、行事の写真撮影を増やし、家族へ請求書送付時に同封するなど利用者の様子を伝えるための改善事例が確認できる。ただし、平日の日中開催ということもあり、家族の参加はない。	運営推進会議のメンバーについては、利用者の家族も規定に定められているため、家族へ参加の呼びかけを継続しながら、参加に繋がるための更なる工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業運営、介護保険や生活保護に関する相談問い合わせを日常から行っている。防災訓練に関しても担当課や消防署との連絡をとる。	行政から案内がある研修や勉強会に職員が参加している。県の介護福祉士会に所属している職員が研修会に積極的に出向いている。また、介護相談員を受け入れている他、不明な点は問い合わせしており、日頃からホームの取組みを伝え、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月本部にて身体拘束廃止委員会開催しており、各部署の報告を行い、身体拘束を行わないケアに努めている。身体拘束に関する指針を職員で情報共有行っている。身体拘束に関する研修も行っている。	毎月法人本部で身体拘束等適正化検討委員会を開催しており、管理者が職員へフィードバックしながら、指針を基に身体拘束を行わないケアに努めている。法人全体研修及び内部研修等でも理解を深めている。毎月職員ミーティングで、言葉遣いなど検討・協議を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修行っている。 苦虐待に繋がる行動など発見した場合は、その場で注意している。職員からも、他の職員が口調が強いなどの報告があり、その際も注意行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて利用者家族と一緒に市町村担当者や裁判所担当者と話し合い支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は疑問、不安に思っている点を確認を行い、契約行っている。加算に関する同意も、書面にて確認、同意捺印頂いている。契約に関する問い合わせなども現時点ではない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見要望は、朝の申し送りやSNSを利用し情報共有に努めている。家族意見に関しては職員、管理者、本部にて検討し必ず意見を反映させる仕組み作りが出来ている。	家族の要望は面会時や電話にて聞き取り、利用者支援に反映している。新型コロナウイルス拡大防止のために面会謝絶が続いたため、利用者直筆の便りに写真を添えて送るなど工夫していることがわかる。面会再開の知らせを発送し、家族の訪問が始まっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングを毎月1回開催し、職員全体で話し合いを行っている。職員の希望である業者による全部のエアコンの清掃、物品の購入など職員の意見が反映されること多かった。	職員会議では、職員からさまざまな要望が出ており、鉄製のごみ箱が危険であるという意見からプラスチック製品を購入した事例がある。また、夜勤明け後は2日間休めるようシフトを組む他、資格取得の希望には、受験を優先するよう支援している。毎月、理事長と管理者が話し合っており、職員の要望を伝える機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部の代表者と管理者による話し合いを月1回行っている。職員の意見を反映し、働きやすい職場環境作り、有給休暇の積極的な取得も出来ている。職員の家族行事なども大切にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の実施案内、外部研修パンフレットの掲示による参加案内行っている。来年度より職員の力量を把握するため、キャリアパス制度を実施予定。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に所属しており、同業者と交流する機会を作っている。研修会の参加なども積極的に今後行っていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始までの間に、必ず本人や家族と面会し困っていること、不安なこと、要望等を本人の要望を聞く様に努めている。、本人の安心を確保する関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に緊急時の対応を含む、確実に連絡がつく時間帯などの確認を行っている。家族関係があまり良くない利用者もいるが、定期的な連絡や面会をお願いしており、実現している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の時点で、グループホーム利用が適切でない場合や満床の場合は、法人内の各事業所などに連絡相談を行い、入居可能なサービス、入居の提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「大家族をつくろう」を理念としており、暮らしを共にする者同士として利用者、スタッフで喜怒哀楽を共にし支えあう関係を築けるよう常に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「大家族をつくろう」という理念のもと、本人と家族、職員も含めた絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築けるよう常に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	必要以上の面会や外出の制限は行っていない。 家族主催の食事会への参加やお正月の自宅への帰省、外泊など実現している。	新型コロナウイルスによる自粛前までは、家族や幼なじみの訪問があり、利用者と歓談する機会があった。年賀状や手紙を書く利用者には投函を支援したり、時には職員が代筆することもある。第三者委員でもある理髪店の理容師が訪れ整容している他、正月には自宅に戻り楽しい時間を過ごす利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	男性利用者の席を隣同士にするなど、利用者同士が関わり合いを持てるように支援している。 リビングで過ごさせるときなど、会話されること多く、事業所内の雰囲気も良い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りにて退所となられる方多く、葬儀などに出席させて頂いている。後日家族が挨拶などに来られ、故人との思いで話を職員とされること多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	書道や生け花が好きだった利用者には、レクリエーション時に行っている。正月用の生け花などにも参加されており、書初めなども行った。「綺麗ね。」などの感想も多く、今後もレクリエーションの際に継続して行っていく。	ホームでは、一日のルールを定めず、本人の生活を大切にしている。起床、就寝は自由であり、食べ物の好き嫌いを把握してリスト化し職員間で共有して支援に役立てている。書道を楽しむ利用者の他、職員が依頼して花を生けてもらうなど本人の生きがいに繋げている。男性利用者にプロレスのDVD鑑賞を勧め、喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の仕事の内容など情報を共有し、会話の際などに役立てている。本人がされていた仕事の話をする、と生き生きとされる利用者多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「大家族をつくろう」という理念のもと、利用者との信頼関係を築きながら、現状把握に努め、現状情報は申し送りやノートで職員全員が共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や関係者の面会時に、職員により現状報告を行っている。意見を頂き、本人を含めての課題やケアの見直しを行う。職員での話し合い、申し送りノート等を活用し、職員ミーティングにて検討内容を話し合い介護計画へ反映している。	利用開始より1ヶ月の暫定プランを立て、その後短期6ヶ月・長期12ヶ月の計画を作成している。本人・家族の希望を毎回面会時や電話で聞き取り、同意を得ている。6ヶ月毎にモニタリングに取り組んでいる。退院後は医師の意見を基に計画を見直している。ただし、介護記録に計画との連動がみられない。	「支援経過記録」の更なる活用に向けて、様式の再検討を行いながら職員間で計画との連動について理解を深め、記載法を統一していくことが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用経過記録の書式変更を行った。利用者1人につき1日1枚と枚数多くなったが、利用者の1日の様子や状態などを、見やすくまとめることが出来た。記録を見直す際に大いに活用できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なもの等は必ず家族に相談し了承を得てから、導入するようにしている。福祉用具なども活用し、本人が無理のない支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療を提供行っている。毎日かかりつけ医に医療連携にてFAXしており、医療的な支持をもらっている。必要に応じてかかりつけ医の指示を家族にも報告行っている。	協力医をかかりつけ医としており、毎週往診がある。入居前のかかりつけ医を継続している利用者もおり、家族が通院同行している。非常勤の看護師を配置している他、治療を含めた訪問歯科や皮膚科、整形外科の往診など本人・家族の希望に沿って支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師配置している。看護師不在の際にも、いつでも連絡が取れる環境になっている。職員も何かあればすぐに看護師に相談行い、信頼関係が構築されている。看護師に記録への記入もお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には問い合わせ行い本人に状況確認行っている。退院時も不安な事あればすぐに問合せ行い、かかりつけ医にも相談行っている。入院時には必ず家族にも同席してもらい、家族、職員共に不安がないよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医同席のもと家族を交え面談行っている。家族が不安に思っていることなども、すぐにかかりつけ医に相談行い、不安の軽減に努めている。家族に看取り時期の利用者に食事介助など出来ることをしてもらい、関係づくり行っている。	昨年は1例、直近で1例の看取り支援を行っている。利用開始時、看取りについて家族と指針の共有を行い、重度化した際は医師を交えた意向の再聴取や説明により、家族の同意を得て支援に取り組んでいる。家族が訪れ利用者の食事介助を行っている事例から、終末期の家族との関係づくりを支援していることが確認できる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時などのマニュアル作成行っており、連絡手順など記載している。どの職員でも対応できるよう工夫を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消防署の協力により、日中・夜間の初期消火、通報、避難行動を把握できている。避難訓練も毎月行っている。	毎月の消防訓練では多様な想定内容が確認できる。非常持ち出し品、備蓄の整備もある。ただし、消防署との連携においては、ホーム内の消火設備の点検に留まっており、立会いによる総合訓練を実施していない。また、消防団や地域住民との協力体制の構築にも至っていない。	有事の際、少ない職員で、どう動き、利用者を安全に避難させることができるのか、シュミレーションだけではなく、消防署立会いによる総合訓練等の実施が待たれる。消防団や地域住民等との協力体制の構築にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応に関しては、すぐに注意指導を行っている。必要な場合は個別にて指導行う。管理者不在時などに不適切な発言があったことなど、職員より報告あることあり、その都度指導している。	職員は利用者の尊厳を重視し、苗字にさん付けで呼んでいる他、本人の顔写真を使用する場合は必要な時のみ本人・家族に連絡し同意を得ている。また、利用者の個人別の情報は氏名を用いずホーム内のルールにて保管する工夫がある。職員は守秘義務の誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望など聞く際は、自室又は事務所内などで行うようにしている。必要な際は家族にも協力してもらい、問題解決に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が作った決まりはない。利用者それぞれが好きなお事を行い、好きな時間に自室やリビングにて休まれている。「畳みましょうか？」と洗濯物などを積極的に畳んで下さることもあり。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回全利用者対象に、散髪サービスを無償にて行っている。座位難しい場合は、ベッド上でサービス提供行った。体調不良などで散髪サービス受けられなかった際は、後日日程調整し実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在調理を行える状態の利用者いない。行事食など提供行い、季節を感じて頂くようにしている。	1年程前から三食とも外注業者の食事を利用している。利用者の嗜好は業者に伝えており、ホームで代替食も準備している。おやつには職員手作りの寒天や家族からの品を提供し楽しんでいる。新型コロナウイルス自粛前は回転寿司にて外食している。誕生祝に家族や親戚と食事会に出掛ける利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	かかりつけ医などに相談行い、個々に応じた食事の提供行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日に2回、口腔ケアを行っている。訪問歯科による指導なども実施している。必要に応じて訪問歯科による、嚥下評価も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄時間と量を表へ記録している。利用者の能力や状態、排泄パターン、習慣を把握して、排泄の自立へむけた支援を行っている。	職員は排泄チェック表に記録し定期的に誘導している。頻繁な排泄の訴えは会話することで軽減するなど工夫している事例がある。パッドのサイズは日中と夜間で変更するなど、利用者が快適に過ごすために職員間で検討し、支援に繋げていることがわかる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医に相談行い内服薬、漢方薬を使用することあり。出来るだけ自然排便して頂く様に心掛け、運動や水分摂取のお願いしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日設定しているが、入浴リスク高い利用者については、看護師がいる際に入浴を行っている。車いす利用の方多くなっており、浴室にリフト導入予定している。	週3回入浴を準備しており、利用者ごとに週2回の入浴を支援している。入浴日以外の日には清拭や衣類交換を行い、職員は利用者の清潔保持に努めている。入浴拒否の場合は、理由を聞いて安心して入浴できるよう対応する職員を変えたり、声掛けを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中など必要に応じて休息の時間作っている。夜間大河ドラマの視聴を楽しみにされている方がおり、テレビ視聴に関する時間も定めていない。それぞれの利用者が好きな時間に休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬情報を利用者別にファイル整理しており、職員それぞれが効用や副作用等を確認するようにしている。薬の変更情報は、往診記録、申し送りにて職員全員が確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に合った役割分担をしている。嗜好傾向や楽しみごとを把握し、その人らしい生活を過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等への外出制限は行っていない。家族との食事会や外泊されて利用者もいる。車であじさい見物なども行っている。新型コロナウイルスの影響もあり、現在は外出見合わせている。	新型コロナウイルスによる自粛前までは、庭でおやつを食べたり、花見に出掛けている他、秋祭りの見物に出掛けた利用者もいる。また、家族の協力を得て、病院受診の際に戸外の空気に触れて気分転換している。ホームでは6月からホーム車輛が廃止となり、日常的な利用者の外出が容易ではない状況にある。	利用者の日常的な外出支援を考える時、ホーム車輛が廃止となったことについては、再考に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等のトラブルの原因となるため、金銭の所持は許可していないが、必要物品や嗜好品の購入には制限を設けていない。購入はホームにて立替払いを行い、後日、利用料金と共に請求している。購入の前に、家族等に了解をとる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される時に支援行っている。 手紙を書いて出される方もおり、切手購入や投函などの支援行っている。 家族にも電話連絡の了承もらっており、本人希望される際は対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには大きな窓があり、窓の外には庭や自然の草木見える。建物の向きを工夫して直射日光は午前中の限られた時間にしか入らず、不快な光が入らないようにしている。車道より高台に建物があるため、車の騒音も気にならない。	採光の良いリビングでは、木製の長テーブルに利用者が集い寛いでいる。側には対面式のキッチンカウンターがあり家庭的な空間となっている。また、畳の間には電子ピアノを備えてあり、音楽で賑わうなど憩いの場となっている。職員は月ごとの掲示物により季節感を演出している他、清掃・室温調節など清潔保持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの隣に和室を設置する等、利用者が自由に使える共有空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具など、危険物以外の持ち込みには制限を設けていない。居室では居心地よく過ごしていただけるよう支援を行っている。 看取り時期の際は、家族が宿泊し利用者と一緒に過ごすこともあった。	持ち込みに制限はなく、使い慣れた家具やテレビ、家族の写真などを自由に配置している。新聞や本を読んだり、ラジオを聞いたり、音楽を流して楽しむなど、自宅同様に暮らす様子が窺える。職員は週3回居室の清掃、週末には寝具交換を行い環境整備に努めている。臭気除去機や加湿器を設置し空調も管理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室内での転倒リスクなどある際は、職員で話し合い行い環境整備行っている。 福祉用具も活用し、安全で自立した生活が行えるよう支援行っている。		